

いまこそ超音波検査を見直し煌こう

～最新の装置とともに～

◎山本 幸治

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会の目的は、臨床・衛生検査技師の制度・身分の確立及び学術・技術の向上並びに福利厚生・相互団結の充実を図り、検査技師の職能意識を高めることにより、国民の健康増進及び公衆衛生の向上に寄与することである。平成29年度に行われた当会アンケート調査では「臨床検査技師としての職業に誇りを持っていますか」という質問に、持っているが30%、どちらかといえば持っている46%という結果で、おおよそ7割の方々が誇りを持っているという結果だった。しかし、「臨床検査技師の未来は明るいと思いますか」という質問には、明るいとの回答はたった3%、どちらとも言えないが5割、また、「あなたのまわりの人（これから社会人となる人）に対して臨床検査技師という選択を勧めますか」という質問には、勧める方が22%と低い結果であった。臨床検査技師としての職の未来に不安を抱えている方々が多いという結果が得られました。しかし、検査説明や在宅医療などの業務拡大さらに業務基盤を強固とする検査の一つとしては超音波検査が挙げられる。装置の進化やラインナップの多様性とともに、各診療科における超音波検査の有用性はさらに重要視されるようになってきた。今回は、キヤノンメディカルシステムズの最新超音波診断装置 Aplioa550 とタブレット型の Viamosv7 を使用する機会を得たので、皆様と一緒に検査技師としての未来を広げたい。